

北秋建 100008

平成 20 年 10 月 10 日

国土交通省道路局長

北秋田市長 岸部



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のあったことについては、別紙のとおりです。

1) 高規格幹線道路のネットワーク化の早期形成

高規格幹線道路のうち、特に高速自動車国道はネットワークを形成してその機能を発揮することから、国土の骨格を形成する11,520kmは、国の責任において、道路特定財源が一般財源化されても、着実に整備を推進されたい。

②-1 地域の現状と抱える課題

秋田県北秋田市

○現状

平成 17 年 3 月 22 日に鷹巣町、合川町、森吉町及び阿仁町が合併し、秋田県北部中央に位置し、南北約 70km, 東西約 40km, 総面積 1, 152. 5km²と秋田県の約 1 割を占める広大な面積を有しています。このため、一体的な地域として行政サービスの提供や地域間の相互交流を図り機能的な「まちづくり」が求められている。

○課題

交流連携を促進するための道路ネットワークの構築が喫緊の課題となっていますが、基軸となる市を東西に横断する「日本海沿岸東北自動車道」において二ツ井鷹巣間(二ツ井白神 IC～あきた北空港 IC間)が未だ基本計画区間になっていることや、同じく南北に横断する見込の平成 10 年に候補路線として指定を受けた地域高規格道路「大曲鷹巣道路」の進展が見られないことが「まちづくり」の大きなネックとなっています。早期の建設着手、少なくともルートの設定が望まれます。

急速な少子高齢化の進展や人口減少の到来、産業構造の変化などに、北秋田市を取巻く現状はますます厳しく、地域の課題は年々複合的になってきている。

このような現状の中、北秋田市は「自然とひととの共生」をキーワードに、誰もが安心・安全で快適にらせるように、また、だれもが仕事を持ち子どもを産み育てられるように、そして、お年寄りから子どもまでのだれもが健康で生き生きと暮らせるように、「歩行空間のバリアフリー化」を図るとともに冬期間の除雪機械の乗入れや災害緊急時の利用などに配慮した道路整備を進めるなど、まちの基盤と機能の充実を図りコンパクトな「まちづくり」を構築してまいります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

秋田県北秋田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
①高規格道路のネットワーク化	「大館鷹巣道路」、「大館西道路」の早期供用及び「二ツ井白神IC～あきた北空港(仮称)」の早期事業化を	ネットワーク化することにより、高規格道路の本来目的の他に、地域としての喫緊の課題である高度医療施設への迅速なアクセスが図られる。	
②大館能代空港の利便性向上と都市機能の向上	主要地方道路鷹巣川井堂川線中岱工区 (L=900m・事業期間 H14～H21) 都市計画街路事業太田川口線 (L=1,098m・事業期間 H18～H21)	空港アクセス機能のほか北秋田市の核となる地区及び平成21年度開院予定の2次救急医療施設である「北秋田市民病院」へのアクセス道路として北秋田市を支える重要路線としての機能向上が図られる。	
③コンパクトな「まちづくり」と地域の活力の再構築	地方道路交付金事業 東根田下杉線 (L=1,222.5m・事業期間 H18～H27)	合併の結果として生じた北秋田市の点在する各地区と核となる地区へのアクセス道路として、また、「あきた北空港」及び日沿道「あきた北空港IC」(仮称)への連絡を強化し、物流の効率化と空港1時間圏の拡大により全国的な交流促進と地域の活性化が図られる。	